

I. 大学の部

1. 魅力ある大学づくり

魅力ある大学づくりを目指して、各学部・学科の教育内容及び教育方法に関する組織的な研修及び研究を実施する。

また、卒業生、在学生在が本学を母校として誇れる大学づくりとして、少人数教育、面倒見が良く、就職に強い大学を目指すための学生サポートの強化と、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の社会人基礎力を備えた人材育成を目指す。

2. 学部教育

- ・ 質の高い大学教育推進プログラムへの取組
- ・ 学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
- ・ 退学者対策の強化

3. 学生募集計画

平成 24 年度生の募集状況は、現在進行中であるが、工学部は入学定員の 1.3 倍を超えないように学生を確保する見込みである。

今後（24 年度実施 25 年度生）の募集活動に於いても、本学の特色を更にアピールし、安定した学生の確保と、人間社会学部の募集活動強化を図りたい。

なお、学生募集状況に鑑み、入学定員の適正化を図る為、学部間の定員付替えを実施する。

(A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
システム工学専攻	6 名	情報社会専攻	10 名
電子工学専攻	7 名	心理学専攻	15 名
応用化学専攻	7 名		
計	20 名	計	25 名
専攻名	募集定員		
(博士後期課程)			
システム工学専攻	2 名		
電子工学専攻	2 名		
応用化学専攻	2 名		
計	6 名		

(B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	100名
(機械工学専攻)	60名	心理学科	60名
(ロボティクス専攻)	50名		
計	110名	合計	160名
生命環境化学科			
(バイオ・環境科学専攻)	60名		
(応用化学専攻)	40名		
計	100名		
情報システム学科			
(IT専攻)			
(電子情報専攻)			
計	130名		
合計	340名		

4. 認証評価

平成19年度に受けた認証評価の認証期間が平成24年度末をもって終了するため、平成24年度に2回目の認証評価を(財)大学基準協会へ申請している。現在、認証評価報告書の他評価資料を整備中である。

5. 研究計画

①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(文部科学省補助金事業)

研究期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究目標 オープン・リサーチ・センター整備事業(循環型社会を支援する環境・エネルギーのイノベーション創出)の研究成果を生かして、循環型社会システムの構築に向け、省エネルギー、省資源、低環境負荷を実現する応用技術のイノベーション創出を促進するために機能材料・バイオセンシング技術の開発を重点的に展開し、安全・安心なライフ社会の構築を研究目的とする。

②科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請(増)を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

6. 地域交流計画

①「市民のための公開講座及び心理セミナー」を開催する。

[23年度実績]

・11講座 37コマ(23日間開催)

②「子ども大学ふかや」の開催(埼玉県教育委員会の事業)

[23年度実績]

- ・深谷市内の小学生4年～6年生、67名参加
- ・本学会場を中心に8日開催

③彩の国大学コンソーシアムで公開講座の開催や職員研修会への積極的な参加

④サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(JST)への申請(近隣中学校・高等学校とタイアップして理数系教育事業を展開する。)

⑤正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。

(協定校:24年3月現在 高校18校・専門学校1校)

⑥深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。

- ・ふかや市民大学(生涯学習)へ委員及び講師の派遣
- ・深谷市社会教育委員会委員の派遣
- ・メンタルヘルス相談業務委託(心理センター)の継続
- ・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講(心理センター)
- ・深谷市「砂ぼこり対策協議会」へ委員の派遣
- ・深谷市教育委員会と共催で「子ども向け科学講座」の開講
- ・彩の国いきがい大学熊谷へ講師の派遣

⑦長野県坂城町(坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校)との連携を推進する。

[23年度実績]

- ・合同企業説明会(6月24日)さかきテクノセンター
- ・さかき町企業(製造業)見学会(8月9日、9月13日・14日)
- ・「さかき夏休み子ども体験教室」講座担当(自然エネルギー講座)
- ・「さかきふれあい大学」(学生による科学実験教室)

⑧産学官交流センターを中心に大学の持つシーズと企業が求めるニーズをマッチングして共同研究・受託研究の獲得を推進する。

特に県の補助事業を申請し、コーディネータ・コーディネータ補助員を配備する。

(22・23年度は700～900万円の補助を受け実施・24年度:継続予定)

⑨埼玉県との連携によるリカレント教育(開放授業講座)の実施

⑩教員免許状更新講習会を開催

7. 国際交流

①学術交流提携校との留学生および研究・教育に関する学術交流を積極的に進める

遼寧科技大学・全北大学校工科大学・ポーランド日本情報工科大学

アルマティ工業大学・ベトナム国家大学ホーチミン市工科大学 現在6大学

重慶交通大学

②学術交流協定の積極的な推進(計画)

大連交通大学・西南交通大学・蘇州淑徳言語学校

8. 就職計画

(地域交流)

- ①坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
 - ・インターンシップの実施（8月～9月実施予定）
 - ・坂城町企業見学会を実施（9月実施予定 3日間）
 - ・坂城町企業の学内企業説明会参加（2月実施予定）
- ②長野県との「ふるさと信州学生Uターン就職促進に関する協定」における事業
 - ・企業見学バスツアーの実施（8月実施予定）
 - ・長野県保護者向け「Uターン就職セミナー」（10月・11月開催予定）
 - ・長野県内企業の学内企業説明会参加（2月実施予定）

(学生支援講座・ガイダンス)

- ①公務員対策講座（8月～9月、2月～3月開催予定）
- ②S I Tマイキャリアプラン（5月～9月前期分、10月～11月開催予定）
- ③インターンシップガイダンス（5月開催予定）
- ④内定GET講座（2月実施予定）埼玉県大学就職問題研究会主催
- ⑤面接合宿（2月実施予定）

(学内合同企業説明会)

- ①4年生向け（6・9開催予定）
- ②3年生向け（2月開催予定）
- ③3年生向け業界セミナー（12月開催予定）

(学生支援事業)

- ①ハローワークジョブサポーター相談（4月～3月予定）
- ②キャリアアドバイザー業務（4月～7月前期分、9月～3月後期分）

(連携事業)

- ①ジョブサポーターとキャリアアドバイザーによるセミナー（9月実施予定）

9. 情報公開

平成 23 年 4 月 1 日付、学校教育法施行規則の改正に伴い、来年度も引続き財務状況を始めとした情報公開の拡充と、多くの最新情報の公開を行う。

10. 施設設備計画

- ①キャンパスの耐震補強工事実施
既に実施した 19 号館・2 号館・6 号館に続き、今年度は 1 号館の工事を計画とする。
- ②施設拡充計画
平成 25 年度以降の設備拡充について、具体的計画を策定する。

II. 高校の部

1. 平成 24 年度の募集状況

平成 24 年度の生徒募集は昨年度同様、特別進学系が S 類選抜、S 類、S 類アスリート、I 類、総合進学系 (ATTACK) がポジティブ (P) とアクティブ (A)、そしてスポーツ系という枠組みで、360 名を募集定員とした。現時点では、1 月 22 日、23 日、2 月 18 日と 3 回の入試を終え、3 月 13 日に最後の入試を残すのみとなっている。現在までに 261 名が入学手続きを終えたが、これは昨年度に比べ 50 名ほどの減少であり、一昨年とほぼ同様の水準である。特に減っているのが、23 年度に予想を上回る入学があった総合進学系 (ATTACK) の受験者であることから、制服の変更や新類系の立ち上げによる効果がなくなったことが最大の要因と見られる。また県立高校の入試が 3 月 2 日受験に一本化されたことや、近隣の高校が進学実績を上げ、人気を集めたことも影響していると考えられる。

3 月受験でどのくらいの受験生が集められるか、また県立高校と併願で受験している生徒が、どのくらい正智深谷高校に来てくれるかが大きなポイントになるが、何とか募集定員の 360 名を超えるよう奮闘している最中である。

2. 学力の向上

(授業の質向上)

今年度から (株) ヒューマンリンクの授業レビューシステムの導入を予定している。これは「生徒による授業アンケート」と「授業改善支援」をパッケージにしたもので、導入の目的は、教科単位で効果的な教え方の工夫を共有し、非常勤講師を交えた教員同士の意見交換を活発にし、授業の質を改善することにある。

(進路指導の強化)

特進については、国公立大学への合格者数 30 台を目標にする。センター試験については、受験者数増と、平均点の向上の両方を目指す。ATTACK およびスポーツ系では、現役での 4 年制大学進学者率 80%ラインを維持する。また全類系で生徒一人ひとりの模試の偏差値を入学時よりも上げ、平均偏差値では 2 ポイント上げることを目標にする。

(基礎学習の充実)

成績の低迷している生徒への対応として、週 2、3 回放課後に、英、数を中心に学習を支援する教室を設ける。自主参加を基本とするが、成績の悪い生徒には強制で参加させる。

(資格取得の促進)

英検は既に全員受験を実施しているが、卒業までに全員が 3 級以上を取得することを目指す。今年度は漢字検定への取り組みも強化し、特に I 類と ATTACK については、早期に全員が受験し、資格取得できるように取り組む。

(高大連携の強化)

昨年「高大連携検討委員会」が始動している。大学、高校双方が、付属校であることのメリットを最大限に活かせるような策を練り、それを全教職員が実施する体制を作りたい。

3. 人格形成

(建学の精神の浸透)

生徒にもわかりやすいよう、建学の精神をより具体的に示すことを検討したい。そして教職員が本校の建学の精神を再認識し、それを教育の柱に据える意義を再確認する機会を設けたい。

(生活指導の徹底)

本校の生活指導はかなり高いレベルにあるが、23年度に処分を受けた人数は、前年度に比べて増加してしまった。全ての教職員が同じ意識をもって指導に当たり、自ら範を垂れるようにしたい。指導に当たっては一方的に押しつけるのではなく、自らに考えさせるような指導をしてゆく。また、悪いことをした生徒に厳しく対処する一方で、模範となる行いをした生徒は積極的に表彰する制度を作りたい。

4. 社会人としての資質の醸成

社会に出て活躍するためには、学力と人格に加え、もうひとつの要素が必要になる。それはしばしば「人間力」と称される能力だが、自ら考え行動する力であり、協調性や社会性、コミュニケーション能力などの資質である。そして自分で定めた目的に向かって、苦難を乗り越えてゆく忍耐力も必要になる。それらの資質を磨くのに有効なのは、学校行事やクラブ活動に自主的に参加することである。

(学校行事)

学校行事のなかでも生徒会主導のものについては、生徒たちが自主的に行事を運用できるよう指導してゆく。自分たちで企画・立案し、それを実行することで、教室では学ぶことができない体験を得ることができる。学校行事のなかでも最も大きな葵祭については、より一層智恵を絞り、保護者や地域の人たちも楽しめる企画が増えるよう、生徒たちを指導してゆきたい。

(クラブ活動)

本校では全ての生徒がいずれかのクラブに参加することを奨励しているが、活動実績が少ないクラブもあり、またクラブに所属していない生徒も少なくないのが実態である。既存のクラブ活動を活性化し、また文化部の数を増やしてゆき、クラブで活動する生徒を増やしたい。

(生徒たちの視野を広げる)

生徒たちの視野を広げ、様々な分野に興味を持たせるために、教員が日頃から時事問題や社会情勢を生徒たちに話して聞かせるようにしたい。また、外部講師による講演も続けてゆく。

5. 募集・広報活動

学校にとって定員を満たすことは本校の存立基盤である。また進学実績を伸ばすためにも、質の高い生徒を集めることが求められる。量の確保と質の向上は相反する命題なのだが、どちらも捨てることはできない。そのために全教職員が一丸となって募集活動に取り組んでゆくこととする。

以上